

インフォメーション・コーナー

会 告

○公益社団法人農業農村工学会第 55 回定時総会の報告	68
○2022 年度名誉会員の推挙	69
○第 28 期理事役職者の選定および会務分担	69
○農業農村工学サマーセミナー 2022 参加者募集!	69
○2023 年度農業農村工学会賞候補の推薦 締切 10 月 31 日	70
○今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2022” 応募締切 7 月 31 日	71
○修士課程 2 年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています	71
○お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付	73
○CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載	73
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	73
○2022 年度から CPD 利用料等を改定しました	74
○2023 年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日	74
○改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内	75
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	76
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022 年 7 月から 2024 年 6 月までの編集体制と編集事務局	77
○令和 4 年度東北支部総会・第 63 回東北支部研究発表会ならびに第 53 回東北支部研修会・ 第 42 回地方講習会の開催 (第 2 報) 11 月 1, 2 日開催	78
○第 42 回農村計画研究会現地研修集会の開催 参加申込締切 7 月 6 日	79
○2022 年度計算力学技術者認定試験の開催 9 月 17 日ほか開催	79
○第 65 回粘土科学討論会の開催 9 月 7 ~ 8 日開催	80
○第 38 回ファジィ システム シンポジウム/FSS2022 9 月 14 ~ 16 日開催	80
農業農村工学会論文集 内容紹介	81
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム (一般参加可) 一覧	83
学会記事	84

第 90 巻第 8 号予定

展望: 確認された農業水路系における生態系保全効果: 水谷正一

小特集: 全国の水田水域における生態系保全対策の評価および新手法の適用

報文: 魚類群集の多様性指数からみた生態系配慮施設の効果: 神宮字 寛ほか

報文: 農業水路の生態系配慮施設が魚類の生息に及ぼす効果: 渡部恵司ほか

報文: 農業水路における環境 DNA 調査: 小出水規行ほか

報文: 栃木県 N 川地区の長期モニタリング調査からみる水域ネットワークの役割: 守山拓弥ほか

報文: 東北地方 B 地区の流量変動の大きな水路における生態系保全の効果検証: 森 淳ほか

報文: 三重県朝見上地区における深み工による魚類保全効果の検討: 皆川明子ほか

報文: 山口市阿東地区におけるビオトープおよび環境配慮水路による生物多様性保全効果の検討: 中田和義ほか

技術リポート

北海道支部: 圃場整備の設計における 3 次元設計の試行: 三上雄也

東北支部: 二級河川五戸川における魚道の効果検証: 野呂明弘ほか

関東支部: 水門の自動開閉システムの普及に向けた課題と解決策: 横山空生

京都支部: 基礎杭施工時の被圧地下水の影響検討と近接住宅地への対策: 榎原拓実ほか

京都支部: KU-LINER®工法による管更生事例の紹介: 霜村 潤

中国四国支部: 圃場整備における用水パイプライン化に伴う水利統合: 大谷恭弘ほか

九州沖縄支部: ため池整備工事における ICT 活用事例: 中嶋和成

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

㊦のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。なお、新型コロナウイルス感染症防止対策等により、ライブ配信での口頭発表が行われない場合は、認定プログラムの対象にならないこともございます。詳しくは主催先の各支部または各研究部会にお問い合わせください。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2022年8月 30日～9月2日	大会運営委員会	2022年度(第71回)農業農村 工学会大会講演会 ㊦	—	金沢市 Web形態	89巻12号 90巻1, 2, 4号
農業農村工学会 大会期間中	農業農村工学サマーセ ミナー2022実行委員会	農業農村工学サマーセミナー2022	—	金沢市 Web形態	90巻7号
2022年7月 30日	農村計画研究部会	第42回現地研修集会	中山間地域におけるスマー ト農業実証と今後の展望	三重県 多気町	90巻7号
2022年10月 27, 28日	九州沖縄支部	令和4年度(第103回)支部大会 ㊦	—	佐賀市	90巻5号
2022年11月 1, 2日	東北支部	令和4年度総会・第63回研究発 表会・第53回研修会・第42回地 方講習会 ㊦	—	仙台市	90巻6, 7号
2022年11月 30日, 12月1日	京都支部	第79回研究発表会 ㊦	—	神戸市	90巻4, 6号

公益社団法人農業農村工学会第55回定時総会の報告

- 日時** 2022年5月25日(水) 14:00～14:45
- 場所** 農業土木会館2階A会議室
- 代議員現在数及び定足数** 現在数119名 定足数60名
- 出席代議員数** 101名(内, 出席3名, 書面により議決権を行使した代議員67名, 委任状により議決権を代理行使した代議員31名)
- 定足数の確認等**
総務部長が、定款第21条に基づき定足数の充足による本定時総会の成立を確認した。
- 出席役員**
会長 平松和昭, 専務理事 小泉 健, 監事 長坂貞郎
- 議長の選出**
事務局提案の渡辺 巧代議員を全員一致で議長に選出した。
- 議事録署名人の選出**
議長が議事録署名人2名の選出について諮ったところ、松田 祐吾, 笹田勝寛の両代議員を全員一致で選出した。
- 議事**
決議事項
 - 議案-1 2021年度事業報告**
専務理事から同議案について説明があり、事業計画に掲げた事項が遂行された実績を確認し、審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。
 - 議案-2 2021年度決算**
専務理事から同議案について、財務諸表をもとに公1調査研究等事業会計、公2技術推進事業会計及び法人会計の説明及び監事監査の報告があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。

- 議案-3 名誉会員の推挙**
専務理事から同議案について、16名の方の名誉会員推挙の説明があった。審議の結果、提示案どおり全員一致で可決した。
- 議案-4 役員を選任**
第27期役員の任期満了に伴い、第28期役員候補一人の賛否について、次のとおり選任した。
理事 20名
奥田 透, 加藤 亮, 亀井隆夫, 小泉 健, 近藤文義, 佐藤周之, 凌 祥之, 下平達也, 白谷栄作, 武山絵美, 所 弘志, 平松和昭, 藤原正幸, 堀野治彦, 牧 千瑞, 増本隆夫, 舩谷雅広, 宗岡寿美, 吉田修一郎, 吉原 修
監事 2名
堀田昇克, 長坂貞郎

報告事項

- 報告事項-1 2022年度事業計画**
専務理事から2022年度事業計画について説明があった。
- 報告事項-2 2022年度予算**
専務理事から2022年度予算について説明があった。
議長は、以上をもって議案の審議等を終了したので、14時45分議事の終了を宣言した。
以上の議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人がこれに署名捺印する。

2022年5月25日

公益社団法人農業農村工学会第55回定時総会
(議事録作成者)

議長 渡辺 巧

署名人 松田 祐吾

署名人 笹田 勝寛

2022 年度名誉会員の推挙

2022 年 5 月 25 日に開催された第 55 回定時総会の推挙により、以下の皆様が新たに名誉会員となりました。

これにより名誉会員の現在数は、291 名となりました。

新規名誉会員（敬称略）

池田 正, 長利 洋, 高祖幸晴, 後藤 章, 小林和行,
佐々木清貴, 鮫島信行, 菅原義昭, 高尾武司, 高橋 昇,
豊田裕道, 中村好男, 長東 勇, 真砂洋治, 真島徳幸,
真勢 徹

第 28 期理事役職者の選定および会務分担

2022 年 5 月 25 日開催の第 269 回理事会において、理事の中から定款第 27 条第 2 項の規定に基づき会長、副会長、専務理事を選定した。

また、第 28 期理事の会務分担および常置委員会委員長等を次のように決定した。

記

1. 会長等

会 長 平松和昭
副 会 長 奥田 透
副 会 長 藤原正幸
副 会 長 吉原 修
専務理事 小泉 健

2. 理事の担当部門

[担当部門]	[総括する副会長]	[担当理事]
企画・運営業務	奥田 透	白谷栄作, 下平達也 吉田修一郎, 牧 千瑞
学会誌等定期刊行活動	藤原正幸	凌 祥之, 白谷栄作 吉田修一郎, 亀井隆夫 宗岡寿美, 増本隆夫 加藤 亮, 堀野治彦 佐藤周之, 近藤文義
講演会等行事活動	奥田 透	舛谷雅広, 白谷栄作 下平達也, 所 弘志 武山絵美
調査・研究活動	藤原正幸	武山絵美, 白谷栄作 亀井隆夫, 凌 祥之

編集・出版活動	吉原 修	亀井隆夫, 所 弘志 舛谷雅広
国際活動	藤原正幸	凌 祥之, 吉田修一郎 武山絵美
技術者教育活動	吉原 修	所 弘志, 下平達也 吉田修一郎, 舛谷雅広 亀井隆夫, 凌 祥之
支部業務	奥田 透	藤原正幸, 吉原 修 宗岡寿美, 増本隆夫 加藤 亮, 堀野治彦 佐藤周之, 近藤文義

3. 第 28 期常置委員会委員長等

企画委員会	白谷栄作
広報委員会	牧 千瑞
定期刊行物委員会	白谷栄作
学会誌企画・編集委員会	吉田修一郎
論文集企画・編集委員会	凌 祥之
研究委員会	武山絵美
出版企画委員会	亀井隆夫
行事企画委員会	下平達也
学術基金運営委員会	奥田 透
国際委員会	藤原正幸
学会賞選考委員会	藤原正幸
上野賞選考委員会	武山絵美
スチューデント委員会	吉田修一郎
JABEE 担当	凌 祥之

農業農村工学サマーセミナー 2022 参加者募集！

農業農村工学サマーセミナー実行委員会です。サマーセミナーは農業農村工学を学ぶ学生・若手研究者間の交流の活性化を目的とした学生主催のセミナー企画です。今年度は現地・オンラインのハイブリッド方式で開催予定です。さまざまな企画を通して、農業農村工学に関わる仲間と交流してみませんか？

他大学の学生や他機関の研究者と議論してみたい方、同じ

農業農村工学を学ぶ学生・研究者と交流したい方、まだ研究室に所属していないけれど農業農村工学について知識を深めたい学部学生など、どんな方でも大歓迎です。たくさんの方のご参加をお待ちしています。

※企画段階のため、変更する可能性があります。

1. 主 催 農業農村工学サマーセミナー 2022 実行委員会

- 2. 日時 未定（農業農村工学会大会期間中）
- 3. 対象 学部学生，大学院生，若手研究者，若手社会人
- 4. 参加費 未定
- 5. 企画内容 未定
2021年度はゲーム・雑談などのレクリエーションおよびグループディスカッション（テーマ：災害・防災に対して農業農村工学会ができること／サマーセミナーで動画を作るとしたら？）を行いました。

- 6. 詳細・参加申込み
サマーセミナーの詳細や参加申込みフォームは以下のホームページで公開しています。
参加申込み期間：8月中旬まで（詳しくはホームページで公開予定）
URL：https://sites.google.com/view/n-n-summer-seminar
- 7. お問い合わせ
E-mail：n.n.summer.seminar@gmail.com

2023年度農業農村工学会賞候補の推薦

2023年度の農業農村工学会賞（上野賞，沢田賞を除く）を，締切は，2022年10月末日です。推薦書様式および授賞規程募集要項に則って，推薦書によりご推薦ください。は学会ホームページをご参照ください。

2023年度 農業農村工学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞			
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀報文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業農村工学に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績	農業農村工学に関する計画，設計，施工，管理等の技術業績	農業農村工学に関する単独の論文業績	農業農村工学に関する単独の報文業績	農業農村工学に関する計画，設計，施工，管理等の単独の技術業績	農業農村工学に関する単独の技術リポート業績
賞の対象期間	2017年10月から2022年9月までに発表されたものとする。ただし，その5カ年以内に発表したものと同一の課題については，それ以前に発表されたものも，一連の業績とすることができ。	2019年10月から2022年9月までに発表されたものとする。ただし，その3カ年以内に発表したものと同一の課題については，それ以前に発表されたものも，一連の業績とすることができ。	2019年10月から2022年9月までに発表されたものとする。ただし，その3カ年以内に発表したものと同一の課題については，それ以前に発表されたものも，一連の業績とすることができ。	2021年10月から2022年9月までに発表されたものとする。	2021年10月から2022年9月までに発表されたものとする。	2020年10月から2022年9月までに発表されたものとする。	2017年10月から2022年9月までに発表されたものとする。
賞の対象業績	原則として本学会の刊行物に発表された論文，報文等とする。			原則として本学会の刊行物に発表された論文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された報文とする。	原則として本学会の刊行物に発表された論文，報文等とする。主として現場調査資料，現場技術報告書とする。	原則として本学会の刊行物に発表された技術リポートとする。
受賞候補者	個人			個人または組織，団体			
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦，他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			正会員および名誉会員の自薦，他薦または学会誌・論文集の企画・編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。			

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	原則として一般に市販されている図書の中で，農業農村工学に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をしたと認められる業績	農業農村工学に関する教育，技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など，美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工を行い，もしくは管理・保全活動を行った業績	農業農村工学に関する歴史・文化を広く世に紹介し，あるいは研究分析などを行った業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業農村工学に関する学術または技術について，国際的な交流や調査研究で優れた業績	農業農村工学を紹介したパンフレット，ビデオ作品，教材スライド，映画等	長年にわたる，地道な教育・研究または実務の積み重ねを通じて，農業農村工学の学術または技術の進歩発展に多大の功労があったと認められる者
賞の対象期間	2012年10月から2022年9月までに発表されたものとする。	2017年10月から2022年9月までに行なった活動とする。	2020年10月から2022年9月までに行なった活動とする。	2017年10月から2022年9月までに行なった活動とする。	2017年10月から2022年9月までに行なったものとする。	2017年10月から2022年9月までに行なったものとする。	2020年10月から2022年9月までに制作したものとする。	
賞の対象業績	ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また，改訂版にあっては全面改訂したもののみを対象とする。							2022年度末に65歳以上に達している者
受賞候補者	著者	個人または組織・団体			個人	個人	個人または組織・団体	個人
推薦の方法	正会員および名誉会員の自薦，他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦，他薦または技術者継続教育機構 CPD 運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦，他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦，他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦，他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦，他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦，他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。	正会員および名誉会員の自薦，他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を1部提出する（いずれも返却しない）。
選考の方法	学会賞選考委員会において行う							
賞の決定	理事会において行う							
表彰	2023年度（第72回）農業農村工学会大会講演会において会長が授与する							
推薦締切	2022年10月末日							
推薦書の提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-3-4 公益社団法人 農業農村工学会 学会賞選考委員会宛							

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像！2022”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2022年7月31日(日)17:00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2022年度のテーマ 「〇〇からみた農業農村」
※〇〇は投稿者が自由に単語を入れてください。
4. 応募資格 どなたでも応募できます。
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品) 2万円
優秀賞(2作品) 各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9. 参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2022, こりゃ映像, 農業農村)を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.

or.jp)宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<https://douga-tec.com/?p=4974>
- ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<https://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像2021 結果

最優秀賞：田んぼは洪水から地域を守ります 水の守り人たち～防災・減災

野洲川土地改良区 鍋家可捺

<https://youtu.be/j0jtjQKuv1A>

優秀賞：【ゆっくり解説】農業農村の歴史を振り返る

京都大学大学院農学研究科 長瀬由佳

https://youtu.be/lUFPqk_aP70

優秀賞：歴史からみた農業農村～富山県常西合口用水～

富山県農村整備課 水落亮佑

<https://youtu.be/y9WGpzWmZyY>

修士課程2年生などの皆さん 博士課程で取り組む研究課題を募集しています

農業農村工学会では、2023年度支給開始[2022年度修士課程2年]学生などを対象に、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」についての研究課題を募集します。

以下の募集要領に従って、ふるってご応募ください。応募締切りは、2022年9月30日(金)17:00までです。

募集要領

1. 趣旨

農業農村工学会(以下、「学会」という)は、「農業農村工学の進歩及び農業農村工学に関わる研究者・技術者の資質向上を図り、学術・技術の振興と社会の発展に寄与する。」ことを目的としています。農業農村工学に関する重要な課題として、土地改良長期計画(2021年3月23日閣議決定)があります。それを技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画(2021年11月公表, <https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>)」があり、そこに示された「あるべき農業・農村の姿」に資する重要課題に取り組むことが喫緊の課題となっています。

その一方、大学改革の推進や少子化の影響により、これらの課題に取り組む若い研究者が不足し、人材の確保と育成が学会

の喫緊の課題となっています。

そのため、博士後期課程に進学し、研究に取り組もうとしている学生の研究課題を支援するため、学会では、(一財)日本水士総合研究所(以下、「水士総研」という)(<http://www.jiid.or.jp>)の公益目的事業である「農業農村整備事業に関する調査研究」からの委託などを活用して、「農業農村整備技術に貢献する博士課程学生による調査研究活動への支援事業」(以下、「支援事業」という)を創設し、博士後期課程学生への研究課題に対する支援を行います。これにより、農業農村整備技術の向上を図るとともに、関連する人材の確保と育成を目指します。

2. 対象者、募集人員及び取り組む研究課題

【2023年度対象者】

2022年度現在、修士課程2年、博士前期課程2年の学生で博士後期課程に進学する者を対象とし、学会の学生会員であることを要件とします。なお、募集時点で学会非会員の学生については、採用後に学生会員に入会することを要件とします。また、2023年度に博士後期課程(一般)[社会人コース等を除く]に在学見込みで、その年度末に30歳代以下の若手も対象とし、学会の正会員または学生会員であることを要件とします。

募集する研究課題数は、4課題以内です。なお、現在博士後

期課程に在籍している学生や社会人の博士後期課程学生は、すでに研究課題を決めて取り組んでおり、この事業の目的である研究課題と一体化することが困難と考え、支援事業の対象者としません。また、日本学術振興会の特別研究員制度の採用者も対象としません。ただし、日本学術振興会の特別研究員制度との併願は可能ですが、重複受給はできません。

他の奨学金や助成制度による支援を受ける学生の応募は可能です。ただし、支援事業に研究課題が採用された場合に、現在受給している他の支援金を引き続き受け取ることが可能かどうかを、必ず確認してください。

採用後に取り組む研究課題は、2021年3月23日に閣議決定された「新たな土地改良長期計画」を技術面から支える「農業農村整備に関する技術開発計画」に資する研究課題とします。考えている研究課題と技術開発計画との適合性など確認したいことがありましたら、気軽に事務局に問合せ願います。

- (1) 土地改良長期計画の策定について：農林水産省(<https://www.maff.go.jp>)
- (2) 農業農村整備に関する技術開発計画(2021/11/26公表)
<https://www.maff.go.jp/j/nousin/gijutukeikaku.html>

3. 支援対象学生への支援体制

支援事業に採用後、研究課題に取り組む場合、研究課題に適した国営事業等の研究フィールドの提供、学会が行っている学術基金や関係機関による調査研究費の支援など多角的な研究課題推進のための支援体制を組みます。さらに就職においては、学会が構築する「博士人材マッチングシステム」の活用が可能です(学会ホームページ <http://www.jsidre.or.jp/career-path/> を参照)。

4. 支援事業の規模

支援事業の規模は、1研究課題当たり年間100万円とします。農業農村整備に関する技術開発計画に資する研究活動に使用するほか、研究活動を円滑に行う上で必要不可欠な経費の支出についても認めます。支援期間は、博士後期課程の3年間とします。なお、途中で事業の趣旨に沿わない研究課題に変更した場合は、支援を中止します。また、留年した場合でも支援期間は延長しません。留学や休学等で当該課程での活動を休止した場合は、支援を中断します。

5. 研究支援金の支払先

学会から学生個人の預金口座に年度当初までに振り込みます。

6. 選考方法

- (1) 書類審査
申請に必要な書類は次の3種類です。
 - ①進学しようとする博士後期課程、支援希望動機と取り組む研究課題名とその内容を記載した申請書
 - ②指導教員の推薦書
 - ③これまでの業績リスト
- (2) 面接審査

上記(1)書類審査の結果により面接を行います。

(3) 研究課題の決定

学会に設置した「博士人材育成研究小委員会」において、書類審査および面接審査の結果を総合的に勘案して研究課題を決定します。

7. 研究課題を行う学生の義務

研究課題を行う学生は、所定の様式(A4, 2ページ, 最終年度は、4ページ)に沿って、年度末に指導教員の了解を得た年間研究活動内容を示す報告書を提出します。また、水土総研におけるアソシエイト・アドバイザーとなり、要請に基づき協力活動を行います。

アソシエイト・アドバイザーの協力活動は、毎年水土総研が開催する意見交換会での研究活動内容の報告、調査研究発表会での研究成果の発表と意見交換、「大学生の農業農村体験研修会」における必要に応じての参加、協力などです。

なお、これらの出席に必要な旅費等は、水土総研から別途支給します。

8. 研究課題の選考時期

【2023年度対象者】

対象は2022年度修士課程2年生および2023年度に博士後期課程(一般)[社会人コース等を除く]に在学見込みで、その年度末に30歳代以下の若手となります。

募集期間 2022年8月1日(月)9:00~9月30日(金)
17:00(厳守)

面接 2022年12月上旬

内定 2022年12月末まで

9. 博士後期課程修了後の就職先と返還の扱い

学会が構築する「博士人材マッチングシステム」に登録した場合、農業農村整備技術分野の求人情報を提供します。ただし、これは就職を制限するものではなく、就職先の業種や専門性によって支援事業の返還を求めることはしません。

10. 申請の方法

学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/career-path/>)より、申請様式1~3(Wordファイル)をダウンロードして必要事項を記入の上、E-mailの添付ファイル(Wordファイル)にて「8. 研究課題の選考時期」に示す募集期間内に下記提出先に提出してください(郵送は受付しません)。

各添付ファイル名には、ご本人の氏名を付記し、統一したパスワードをお願いします。パスワードは、別途、メールにてお知らせください。

*申請書類に含まれる個人情報については、学会の「農業農村工学会の個人情報の保護に関する基本方針」に基づき厳重に管理し、本事業の業務遂行のみに利用します。

提出先：農業農村工学会博士人材支援事業担当

E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

11. 問合せ先

(公社)農業農村工学会

事務局 中 達雄
調査研究部 中村充朗

TEL : 03-3436-3418
E-mail : new-suido@jsidre.or.jp

参考：2022年度採択課題一覧

1. 数値流体力学に基づく多孔質体内フィンガー流の理論構築
2. スマート農業技術導入が農村社会へ与える影響メカニズムの解明
3. 沿岸地域の農漁村の存続基盤の再構築に関する研究
4. 流域治水に向けた新たなため池水位予測モデルの開発

お願い!! 新技術開発と人材確保・育成のための学術基金制度へのご寄付

新型コロナウイルスの対策として学会で2022年度の学生年会費を免除することが決定しました。また、大学改革の第二幕を迎えている現在、若手の研究者のみならず、教授を含めた大学教員の研究環境は悪化の一途を辿っており、研究費の削減から人材の育成も困難になっています。そのため、産官学の連携協力の強化を進めているところですが、一環として、学会にある学術基金の拡充が喫緊の課題となっています。使用目的を明確化していますので、ほかに使用することはなく、税制上の優遇措置もあります。新技術の開発と人材の確保・育成のため、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、衷心よりお願い申し上げます。

学術基金の枠組みは、以下のとおりです。

- (1) 学会の事業計画に沿った調査・研究（学会に一任）
（※特に記載がなければ（1）として扱います。）

- (2) 条件を付した寄付

選定条件【 】

- ① ダム保全管理工学に関する調査・研究の推進
 - ・気候変動、国土強靱化に対応した既存ダムの保全管理工学の体系化を推進
- ② 大規模コンクリート構造物の設計・施工に関する調査・研究の推進
 - ・頭首工などコンクリートの大型構造物のプレキャスト化など効率的な施工による生産性の向上や工事期間の短縮

に資する技術開発

- ③ ①、②以外の分野および学際的の分野に関する調査・研究の推進

・上記①、②以外、たとえばICTなど新たに取り組んでほしい技術

- ④ 国際学会会議への出席等の国際交流の推進

- ⑤ 若手研究者の育成の推進

- ⑥ 顕著な功績のあった農業工学遺産の保護等の推進

・青山霊園にある上野英三郎博士の墓所管理

・世界かんがい遺産などの保護に資する調査・研究 など

詳しくは学会ホームページ (http://www.jsidre.or.jp/gakujutsukikin_kifuno-onegai/) をご覧ください。

個人会員一口 5,000円 (何口でも可)

法人会員一口 50,000円 (何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

公益法人である学会に法人が寄付すると法人税に対して税制優遇措置（一般損金算入限度額+特別損金算入限度額）が受けられます。

CPD 通信教育の問題と解答をホームページに掲載

農業農村工学会技術者継続教育機構では、農業農村工学会員でもあるCPD個人登録者が在宅のままCPD単位が取得できることを目的に「CPD通信教育」を実施しています。

2021年9月より、技術者継続教育機構のホームページにそ

の時点で解答可能な「通信教育問題」と解答期限を過ぎた「解答」を掲載しています。学会誌がお手元に届くまでの間はホームページ上で通信教育問題をご確認くださいませようお願いします。

学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者の方がCPD単位を在宅のまま取得でき

る方法として、平成17年10号から農業農村工学会誌「水の知」誌上で「CPD通信教育」を実施しています。学会員であり、かつCPD個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大24cpdを取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非CPD通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構のCPD個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等

の事実の内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌7号掲載の問題は8月末日が解答期限）

5. 取得できるCPD単位

10問正解で2cpdを、7～9問正解で1.5cpdを自動登録

（正解数6問以下の場合にはCPD単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得したCPD単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2022年度からCPD利用料等を改定しました

2022年4月1日よりCPD利用料等を改定しました。

現行のCPD利用料等は、課税対象となった2011年度にCPD利用者の負担増を避けるために内税扱いにして実質的に本体価格を減額し、以降その価格を維持してきましたが、2022年度から税抜価格を当初の価格に再設定しました。また、CPD取得証明書の発行費用を1,500円（税別）に増額する一方で、CPD法人登録者（D区分）の利用料を15,000円/件（税別）に減額しました。改定内容は下記のとおりです。なお、1

機関当たり新たに100人以上がまとめて登録する場合の登録料免除や、30人以上が所属する機関において利用料を一括納入する場合の割引については、それらの制度を維持しています。

見込まれる収入の増分は、喫緊の課題であるセキュリティの一層の強化や利用者サービスの向上を図るためのシステム改造費に充当する計画です。

ご登録の皆さまにはご負担をおかけいたしますが、何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

	2021年度まで	2022年度から
1. CPD登録料	953円（1,048円）	1,000円（1,100円）
2. CPD年間利用料（個人）		
・学会員	2,381円（2,619円）	2,500円（2,750円）
・非学会員	3,810円（4,191円）	4,000円（4,400円）
3. CPD年間利用料（法人）		
・A区分	476,191円（523,810円）	500,000円（550,000円）
・B区分	285,715円（314,286円）	300,000円（330,000円）
・C区分	95,239円（104,762円）	100,000円（110,000円）
・D区分（1件）	28,572円（31,429円）	15,000円（16,500円）
4. CPD取得証明書	953円（1,048円）	1,500円（1,650円）
5. 緊急処理費用	9,524円（10,476円）	10,000円（11,000円）

2023年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2023年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、

それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地

域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 91 巻（2023 年第 1～12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 夏季 2022 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りです。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 91 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は 2023 年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History（表紙写真由来）」

の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者は、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」にご執筆いただきます。ご執筆の詳細は、採用決定時

に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料（1 点につき 1 万円）をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は（公社）農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

また、被写体の学会誌への掲載、肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/format/>）より、投稿票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名詞（固有名詞）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧申込み案内

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版の閲覧希望の皆様へ

改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典は、2019 年 8 月 27 日に発行し好評を得ていますが、下記に該当する冊子購入者の中で希望される方に対して学会ホームページ上（<http://www.jsidre.or.jp/>）での閲覧サービスを順次開始いたします。該当する閲覧希望の方は、下記にしたがい閲覧の手続きをお願いします。

(1) 本用語事典の学会 Web 上での開示については、①正会員でかつ個人で購入した方、および②学生会員での購入者（大学等での先生の紹介によるグループ購入者も含む）の中で希望される方へサービスを提供します。

(2) 上記の条件を満たす方で閲覧を希望される方は、「改訂 6

版用語事典 Web 上閲覧希望」とメール件名に明記の上、氏名および会員番号を付記して（学生会員でグループ購入された方は、紹介の先生の氏名も含む）、下記 E-mail にてお申し込みください。

suido@jsidre.or.jp

(3) 上記メールを受信および確認後、閲覧の手順およびパスワードを返信メールにてご連絡申し上げます。

(4) 学会ホームページ上で閲覧が可能なものは、改訂 6 版 農業農村工学標準用語事典 PDF 版および Web 版が付記されたコンテンツになります。なお、Web 版とは、改訂 5 版から改訂 6 版の編集において、時代や科学技術の変化にともない改訂 6 版から削除した用語の中から現在においても参考になる用語を収録したものです。

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

1. 学会誌小特集の要旨の募集とその報文原稿の執筆

学会誌は毎号テーマを設定した報文小特集を基本に、企画・編集を行っています。本小特集に投稿を希望される会員の皆様には、先に、下記に示す各号の趣旨に沿った報文要旨（A4判、1,500字以内、様式自由）を要旨締切り日までに提出していただきます。

その後、企画・編集委員会において提出された要旨の内容を

検討し、小特集報文を提出していただく連絡を要旨提出された方に行います。その報文原稿の締切り期日は、おおむね本文原稿提出連絡日の約1カ月後です。本文原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守をお願いいたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがあります。

学会誌第90巻、第91巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判1,500字以内)
第90巻第8号	全国の水田水域における生態系保全対策の評価および新手法の適用（仮）	公募なし
9号	みどりの食料システム戦略に貢献する農業農村工学（仮）	終了
10号	現代の農業農村工学技術を支える科学知識のこれまでの経過を考える（Ⅰ）（仮）	公募なし
11号	現代の農業農村工学技術を支える科学知識のこれまでの経過を考える（Ⅱ）（仮）	公募なし
12号	農業農村工学分野における今後の産学官連携のあり方（仮）	終了
第91巻第1号	PAWEES（国際水田・水環境工学会）設立20周年記念	公募なし
2号	乾燥地における持続可能な農業に向けて（仮）	8月10日
3号	CPD 関連	公募なし
4号	大規模災害の発生時に農業農村工学分野はどう貢献したのか（仮）	10月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。

送付先（要旨および本文原稿など）

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

（公社）農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

※提出は、E-mailの添付ファイルにてお願い申し上げます。

第91巻第2号小特集テーマ「乾燥地における持続可能な農業に向けて」（仮）

砂漠化は、砂漠化対処条約にて「乾燥地域、半乾燥地域、乾燥半湿潤地域における種々の要因（気候の変動及び人間活動を含む）による土地の劣化」と定義されています。ここで、「気候的要因」は気候変動や干ばつ、乾燥化などを指し、「人為的要因」は乾燥地の脆弱な生態系の中で、その許容限度を超えて行われる人間活動を指します。この人間活動には、過剰な耕作や開墾、過放牧、不適切な農地管理などが挙げられます。

一度砂漠化してしまった土地では、農業や牧畜業などの食糧の生産基盤が失われるため、環境のみならず資源や安全保障、社会経済などのさまざまな領域でも問題が発生します。また、このような土地を回復させるためには莫大な時間や労力、そして予算が必要となります。そのため、土地を砂漠化させない持

続可能な土地利用が必要となってきます。しかし、その土地における適切な管理方法を明らかにするためには、その地域の気象、水質、土壌、品種、管理方法などだけでなく、その土地に暮らす住民の文化や生活様式からの視点も重要になってきます。

さらに、今後は地球温暖化による気温や降水量などの気象条件の変化や、グローバル化に伴う住民の行動や考え方、食の好みの変化などにより、今までは問題が発生してこなかった管理方法に問題の生じてくる可能性も考えられます。

以上から、本小特集では、乾燥地域、半乾燥地域、乾燥半湿潤地域における農業生産に起因する諸問題や砂漠化対策の成功例などの事例、解決策に関する提案、将来予測等に係る報文を広く募集します。

第91巻第4号小特集テーマ「大規模災害の発生時に農業農村工学分野はどう貢献したのか」（仮）

「天災は忘れた頃に来る」と言います。農業農村工学分野では、将来の大規模災害に備えてハード・ソフト両面の研究開発を行っています。そしてひとたび大規模災害が発生すれば、農業農村工学分野の専門家が災害現場にて災害の状況把握から復旧に至るまでさまざまな分野で貢献することが求められます。

災害復旧現場では専門家の臨機応変な判断と行動が求められます。有田らは災害対応の現場で、担当者が直面する課題を解決してきた実用的な対策や工夫、気づき、教訓などを後に再現、参照可能な形で定式化したものを、「現場知」と定義しています（詳しくは本誌第84巻第6号をご参照ください）。これま

で東南アジアだけでも1991年のフィリピン・ピナツボ火山噴火、2004年のスマトラ・アンダマン地震、ジャワ中部地震、2013年のフィリピン・中部を襲った台風ヨランダ（平成25年台風第30号）などの大規模災害が起きました。そして2022年1月にトンガで発生した大規模な噴火は記憶に新しいと思います。トンガでは災害発生直後に人道支援が始まり、いずれ農地を含むインフラ復旧が喫緊の課題になります。日本においても東日本大震災のみならず令和2年7月豪雨などさまざま

2. 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿原稿およびその他の投稿区分の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/journal/>）に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「『農業農村工学会誌』原稿執筆の手引き」を熟読の上、小特集と同じく農業農村工学会誌企画・編集委員

な大規模災害を経験してきました。そういった国内外の大規模災害に派遣された農業農村工学分野の専門家は現地では何を感じ、どのような困難に直面し、そして現地で活動したのか、そのノウハウの継承は将来の大規模災害に対して必ず必要になります。そこで本小特集では、大規模災害で経験した現場の声とその経験に関する報文を募集し、現場知として保存して多くの学会員に共有したいと思います。

会あてに、ご投稿ください。

なお、投稿票・内容紹介・本文（テンプレート）の各ファイル（Word）を更新いたしました。上記の学会ホームページからダウンロードし、各ファイルを使用して原稿の作成をお願いいたします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2022年7月から2024年6月までの編集体制と編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2020年のインパクトファクター（IF）は1.517と過去最高の値になり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動物植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（20名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに

国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2022年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

• Editor-in-Chief

Dr. Toshiaki IIDA

Faculty of Agriculture, Iwate University, Japan

• Associate Editors-in-Chief

Dr. Seong-Joon Kim

Konkuk University, Korea

Dr. Yu-Pin Lin

National Taiwan University, Taiwan, ROC

• Editors 13カ国から20名

• Editorial Advisors 30名

• Chief Managing Editor

Dr. Chihhao FAN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Taiwan, ROC

• Managing Editors

Dr. Eunmi HONG

School of Natural Resources and Environmental Science,

Kangwon National University, Korea

Dr. Taeil JANG

Department of Rural Construction Engineering, Chonbuk

National University, Korea

Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

Dr. Tasuku KATO

Institute of Agriculture, Tokyo University of Agriculture
and Technology, Japan

Dr. Katsuyuki SHIMIZU

Faculty of Agriculture, Tottori University, Japan

Dr. Soji SHINDO

Rural Development Division, Japan International
Research Center for Agricultural Science(JIRCAS), Japan

編集事務局 (2024年6月まで台湾担当)

・ **Dr. Chihhao FAN**

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,
National Taiwan University, Taiwan, ROC

No. 1, Section 4, Roosevelt Road, Taipei, Taiwan,
ROC

TEL : +886-2-3366-3476

FAX : +886-2-2363-5854

E-mail : chfan@ntu.edu.tw

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になり
ます。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者である
こと。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載してい
ます。

発行スケジュール : 年4回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,900円 (税込)

学生会員 (院生含む) 4,950円 (税込)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず
農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。

なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016年度
からの購読はパスワードによるWeb上での閲覧になっていま
す。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会
員番号を明記の上、お申し込みください。

令和4年度東北支部総会・第63回東北支部研究発表会ならびに 第53回東北支部研修会・第42回地方講習会の開催 (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日 令和4年11月1日(火)、2日(水)
2. 会場 ハーネル仙台 (支部総会・研究発表会等)
〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町 2-12-7
TEL : 022-222-1121
ホテル白萩 (情報交換会)
〒980-0012 宮城県仙台市青葉区錦町 2-2-19
TEL : 022-265-3411
3. 会場までのアクセス
「ハーネル仙台」
(1) JR利用の場合
仙台駅から徒歩約15分
仙石線あおば通駅から徒歩約7分
(2) 市営地下鉄利用の場合
広瀬通駅から徒歩約3分
勾当台公園駅から徒歩約5分
※無料駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用
ください。
「ホテル白萩」
(1) JR利用の場合
仙台駅から徒歩約15分
仙石線あおば通駅から徒歩約15分
(2) 市営地下鉄利用の場合
広瀬通駅から徒歩約15分
勾当台公園駅から徒歩約13分
(3) ハーネル仙台から移動する場合

徒歩約11分

※無料駐車場もございますが、台数に限りがあるため、
公共交通機関のご利用にご協力ください。

4. プログラム概要 (案)

[第1日目] 11月1日(火)

- (1) 支部総会・研究発表会 [会場: ハーネル仙台]
- (2) 情報交換会 [会場: ホテル白萩]

[第2日目] 11月2日(水)

- (3) 支部研修会・地方講習会 [会場: ハーネル仙台]

5. 研究発表の申込み

- (1) 申込み・原稿受付期間
令和4年8月22日(月)～9月26日(月)
- (2) 申込み・問合せ先
〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1-1
宮城大学事業構想学群 千葉克己
TEL : 022-377-8205 (代)
Email : chibak@myu.ac.jp

(3) 要領

研究発表要旨集原稿の書き方、投稿票ファイルについ
ては、農業農村工学会東北支部のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/tohoku/>) に掲載していますので、
ご参照ください。

6. その他

参加申込みを含めたその他の詳細は本誌第8号に掲載予定
です。

なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により、開催形式をオンラインにするなどの変更を行う場合がありますので、あらかじめご了承ください。

第42回農村計画研究部会現地研修集会の開催

1. 主 催 農村計画研究部会

共催・協賛 農村計画学会, 立梅用水土地改良区, (一社)ふるさと屋, 西村彦左衛門×ICT・IoT 技術実証グループ

2. 日 程 令和4年7月30日(土)

3. 場 所 三重県多気郡多気町 立梅用水土地改良区内の施設

4. テーマ 中山間地域におけるスマート農業実証と今後の展望

5. 趣 旨

気候変動や人口減少等が進む中、地域農業の高韌性や持続可能性を維持・向上させることは喫緊の課題です。一方で、農村地域では、スマート農業をはじめとする減災・防災、獣害対策などの監視システムが各地で導入されてきています。しかしながら、それぞれが独自のシステムであるためこれら情報が一元的でないなど、スマート化による地域農業の持続的発展には多くの課題が山積しています。

今回の現地研修会では、「農業インフラの多目的活用による多面的機能の発揮と強靱な中山間農業のための技術体系の実証(西村彦左衛門×ICT・IoT 技術実証グループ)」から、上記の課題解決に資する知見を探究することを目的とします。

立梅用水土地改良区における情報通信環境施設や整備状況を見学し、現場で明らかになったそれぞれの技術や課題、そしてそれら解決法について、現場の担当者ならびに実証グループ担当者から説明をいただきます。また、それら施設をとりまく農村空間や村住民生活の変化に合わせた水利施設管理などの状況についても現地の方からお話をお伺いする予定です。

皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

なお、本現地研修集会は、農業農村工学会大会講演会中に開催される企画セッション「中山間地域でのスマート農業を誰が担うのか?」とも関連した企画です。

6. 行 程

10:00 立梅用水土地改良区 集合
 (参考) 松阪駅より車で約30分(約17km)
 情報通信機器の整備状況の説明
 スマート農業機器による効果の説明と実際の稼働
 12:00 昼休憩
 13:00 スマート農業機器の現地視察
 15:00 現地解散

7. 参加費・参加申込み

(1) 参加費(昼食代を含む)

一般3,500円, 学生2,000円

(2) 参加申込み

申込期限: 令和4年7月6日(水)まで

変更・取消し: 令和4年7月13日(水)までに申込先へ連絡

申込方法: 農村計画研究部会 Web ページ (<http://www.jsidre.or.jp/keikaku/>) より参加申込書ファイルをダウンロードし、申込先へ電子メールで送信

申込先: 農村計画研究部会 現地研修集会担当
 三重大学 森本英嗣

E-mail: morimoto@bio.mie-u.ac.jp

2022年度計算力学技術者認定試験の開催

1. 主 催 (一社)日本機械学会

協 賛 農業農村工学会ほか

2. 試験日程

上級アナリスト認定試験 2022年9月17日(土), 25日(日)

1・2級認定試験 2022年12月2日(金), 8日(木), 9日(金)

3. 問合せ先

(一社)日本機械学会 計算力学技術者資格認定事業委員会

E-mail: caenintei@jsme.or.jp

4. その他

詳細は、日本機械学会 計算力学技術者資格認定事業委員会のホームページ (<https://www.jsme.or.jp/cee/>) をご覧ください。

第65回粘土科学討論会の開催

- | | |
|--|---|
| <p>1. 主催 (一社)日本粘土学会
後援 農業農村工学会ほか</p> <p>2. 日時 2022年9月7日(水)～8日(木)
(討論会のみ実施, 現地見学会は開催しない予定です)</p> <p>3. 会場 島根大学 松江キャンパス
〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060</p> <p>4. 問合せ先 (一社)日本粘土学会事務局</p> | <p>〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5
アカデミーセンター
E-mail : clay-post@bunken.co.jp</p> <p>5. その他
詳細は, 第65回粘土科学討論会のホームページ (http://www.cssj2.org/event/annual_meeting/) をご覧ください。</p> |
|--|---|

第38回ファジィ システム シンポジウム/FSS2022

- | | |
|--|--|
| <p>1. 主催 日本知能情報ファジィ学会 (SOFT)
共催 国際ファジィシステム学会 (IFSA)
後援 農業農村工学会ほか</p> <p>2. 日時 2022年9月14日(水)～16日(金)</p> <p>3. 場所 東京都立産業技術大学院大学
東京都立産業技術高等専門学校 品川キャンパス</p> | <p>4. 問合せ先
FSS2022 実行委員会
E-mail : fss2022_committee@mlsv.kochi-tech.ac.jp</p> <p>5. その他
詳細は, 第38回ファジィ システム シンポジウム/FSS2022のホームページ(http://fss.j-soft.org/2022/) をご覧ください。</p> |
|--|--|